

佐渡金山 世界遺産に



ユネスコ委登録決定

「照会」勧告から格上げ

インド・ニューデリーで開かれている国連教育科学文化機関（ユネスコ）第46回世界遺産委員会は27日、「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録を決めた。6月にユネスコの諮問機関・国際記念物遺跡会議（イコモス）が「登録」より一つ下の「情報照会」を勧告したが、世界遺産委は登録に格上げした。本県初の世界遺産で、これで国内の世界遺産は文化21、自然5の計26件となる。

佐渡金山は「相川鶴子金銀山」と「西三川砂金山」の2エリアで構成。海外が機械を導入する中、完成された手工業で19世紀中頃まで採鉱と製錬を続け、17世紀には量・質とも

に世界最高水準を誇つたとされる。政府は手工業が行われた江戸時代までを推薦時期とした。

佐渡金山のシンボル「道遊の割戸」＝佐渡市相川地区（本社小型無人機から）



イコモスは「情報照会」勧告の中で世界遺産としての価値を認めた一方、①江戸期より後の資産が大部分を占める佐渡市の北沢地区除外②相川鶴子金銀山の緩衝地帯の沖合への拡張③鉱業権所有者が採掘を再開しないことの明確な約束―を要請。それを受け、政府などが世界遺産委までに対応を終えていた。